

くるりんバスの機能的なルートを

検討を進めていきたい
大沢 純一(公明党)



問 「自分たちの住んでいる地域にくるりんバスを」との声を各地からいただきます。コミュニティバスは、路線バスの採算が合わないルートを補完することが前提です。住民の要望と財政の最大公約数をどう形づけるのか。地域別懇談会や、地域公共交通会議での検討の状況を伺います。また、ルートについては、路線バスや鉄道へつなぐために、ハブ機能を持つバス停と、そこへの短いルートを多く設定することが考えられます。見解を地域別懇談会では、鉄道駅へのアクセスなどのルートについてや、利便性が高ければ値上げも可との意見、わかりやすいダイヤ設定などの意見がありました。先の地域公共交通会議では、くるりんバスの見直しの方向性などが議論され、次回、その意見を踏まえて具体的な運行ルートなどを議論したい。鉄道駅やモノレール駅での乗り継ぎ、ハブ化という視点は重要な要素だと認識しており、バスの乗り換えも含めて検討を進めたい。

立川市医師会との連携強化を

協議の機会を作っていきたい
高口 靖彦(公明党)



問 地域医療や生活支援は、地域包括ケアシステムの要です。本市と、立川市医師会や医療機関との連携はどのようになっているのでしょうか。今後の在宅医療や在宅療養を考えると、組織としての医師会との連携の強化、さらには、歯科医師会や薬剤師会などの連携が大事だと考えます。さまざまな課題を抱えているだろう医療機関に対し、市はどのようなバックアップができるかを考え、強力な信頼関係を築いていっていただきたい。現在は、在宅医療的ケアを必要としている場合、ケアマネジャーなどが医療機関と連携して対応しています。立川市医師会からは、在宅訪問診療に関する情報提供を受けており、また、介護保険運営協議会などにおいて意見をいただいています。本市と立川市医師会との連携強化は、大変重要だと認識しています。地域包括ケアの視点に立った、在宅医療・介護連携の推進に向け、今後、立川市医師会とも協議の場を設けていきたい。

西武立川駅南口に信号の設置を

交通管理者に要望していく
門倉 正子(公明党)



問 昨年、西武立川駅南口駅前広場が整備されました。駅前には大型商業施設ができ、大変便利になりましたが、一方で交通の問題が生じています。駅南口ロータリーから市道2級26号線の道路に出る南T字路に横断歩道がありますが、車の流れが速く、渡るのが大変危険な状況です。また、自転車で行く車とぶつかりそうになって大変危険との声も多く寄せられています。このT字路に信号を設置すべきだと考えますが、見解を伺います。
答 信号機の設置については交通管理者が所管しており、交通量や交差点の形状等を調査・分析するとともに、他の対策により代替が可能かを考慮したうえで、設置場所を選定すると伺っています。西武立川駅南口の信号機設置については、開発当時、今後の交通量などの状況を見て検討するとの見解をいただいていますので、ご意見の趣旨を踏まえ、交通管理者に対して信号機設置を要望していきたいと考えています。

立川駅周辺に期日前投票所を

実現に向け、検討している
山本 みちよ(公明党)



問 これからは、市民が投票しやすい環境整備の推進が必要だと考えます。期日前投票所については、通勤途中や買い物物ついでに立ち寄れる場所として、立川駅周辺が大きい期待できます。立川駅北口西地区市街地再開発ビルが完成して、窓口サービスセンターが入ったときに、期日前投票のできるスペースを確保し、市民が利用しやすいようにしていきたい。また、投票入場券の裏面に宣誓書の印刷をとの声があるが、見解を伺います。
答 立川駅北口西地区市街地再開発ビルの中に入る窓口サービスセンターは、従前よりも広くなりまます。そのため、多目的スペースを期日前投票所として活用できる方向で、現在検討を進めています。期日前投票の宣誓書については、過去には大きなものを使用していた際、文字や記入欄が小さいという意見が多かったため、現在はA4の大きさに変更し、市ホームページに書式を掲載して、自宅で入力して印刷できるようにしています。



秋の日のお散歩に最適(サンサンロード)



西武立川駅南口の交差点



再編計画の検討が進んでいます

空き家活用に向け、一元的窓口の設置を

他市の例も参考に検討を進めたい
稲橋 ゆみ子(立川・生活者ネットワーク)



問 まちのなかには、人が住まなくなっています。この空き家の活用が、今後の超高齢化社会に向けたコミュニティの創出等にとって効果的と考えます。そのためには、所有者と活用を求めている団体などを結びつけるための施策が必要ですが、税や安全な環境に関する相談のほか、活用についてのアドバイスを受けられるような、空き家に関する相談を一元的に受ける窓口を設置すべきだと考えますが、見解を伺います。
答 空き家は、所有者にとっては重要な財産ですが、市としては、管理されず放置すると環境の劣化を招くおそれが高い危険な空き家等への対策を行っています。これについての市の相談窓口は、関連部署の連携のうえで一元化しています。貸したい・売りたい人と住みたい人を結びつけるような窓口の設置など、空き家の利活用については、他市の例も参考にし、住宅マスタープランの見直しの中で検討を進めていきたい。

コミュニティタクシーの導入を

もう少し検討が必要
谷山 きょう子(立川・生活者ネットワーク)



問 小平市では、平成19年より鉄道や路線バスなどの基幹交通を補う、地域の需要に応じたコンパクトな生活交通であるコミュニティタクシーを、地域の方々や交通事業者と協働で検討し、運行しています。本市でも、くるりんバス見直しに合わせた公共交通等の取り組みとして、くるりんバスのルートから外れた道幅の狭い住宅地も走れる、ワゴン車を利用したコミュニティタクシーの導入を進めていくべきだと考えますが、見解を伺います。
答 小平市のコミュニティタクシーの導入の手法、市民参加型の検討手法については、意義のある手法として注目していますが、地域・道路事情など、本市の現状とは異なる点があるのではないかと考えています。地域公共交通を地域で支えるという意識は重要な要素ですが、さらに事例等を研究するとともに、地域ニーズの把握に努めながら、コミュニティタクシーの導入についてはもう少し検討・研究をする必要があると考えています。

サンサンロードをおしゃれな広場に

実現に向けて検討していく
中山 ひと美(たちかわ自民党・安進会)



問 立川基地の全面返還から30数年経過し、にぎわいのあるまち立川が構築されていますが、今後、サンサンロードをもっとおしゃれで、多くの人が訪れる広場にしたい。そのための施策には、美術大学に製作を依頼したベンチの設置や、市民からベンチに記したい詩とともに費用を募って作る「思い出ベンチ」の導入、町会単位等で沿道に花を植える取り組み、オープンカフェなどがあると見解を伺います。
答 オープンカフェについては昨年度、市内団体によって2日間の社会実験が行われ、アンケートの結果は好評だったと聞いています。「思い出ベンチ」については、地域を愛し、自らの意思を寄付としてあらわすことであり、道徳教育で地域貢献を学ぶ際の教材にもなると考えます。市民の力を生かした取り組みをめざし、今後ともまちの皆様と知恵を出し合いながら、おしゃれなサンサンロードの実現に向けて検討していきます。

生活困窮者自立支援法への取り組みは

全庁的な協力体制が必要
大沢 豊(緑たちかわ)



問 滋賀県野洲市では、生活困窮者自立支援法が始まる前から、どのような人が生活に困窮しているかを知らするために、積極的に情報を集めて全庁的な連携をとっています。相談を待つのではなく、どこかの部署で滞納があれば相談につき、各部署が連携をとりつつ情報を一元的に集めて把握する仕組みをつくり、ワンストップサービスで解決に向けて取り組んでいます。本市でも、本庁舎で職員が連携する必要があると考えますが、見解を伺います。
答 生活困窮者自立支援法に基づき、事業の推進にあたり、窓口をつくって、ただ相談にくるのを待つだけではなく、積極的に情報を集めることが、法の趣旨として掲げられています。早期把握や、利用可能な支援の効果的な活用、支援体制の構築など、庁内関係部署はもとより、全庁的な協力体制が必要不可欠であると考えています。窓口の設置場所は、本庁舎、他機関それぞれの長所、短所を考えながら検討しているところです。